藎草

〔倭訓栞前編十一志〕ゑば○中略　萊草をいふは去聲によべり、新撰字鏡に莿をよめり、是も繁葉成べし、一説に絲茅の音轉也といへり、万葉集に、道のゑば草、新六帖に百敷の庭のきり芝と見えたり、結縷草也といへり、中山傳信錄に、茸草如茵、極細軟柔、結寸許、連土不散、布滿山上と見えたるも同じ、芝字をよみ來れど、字書に其義なし、古へ萊と通用ゑたるに譯あるべきにこそ、聖武紀に、内裏生玉來と見えたるは、萊音來なれば、玉芝を玉來と書せしと見えたり、

〔和漢三才圖會九十四末濕草〕結縷草（かうらいしば からしば）　横目草　鼓箏草　傳音附　俗云高麗萊

救荒本草云、師古漢書注曰、結縷蔓生著地之處、皆生細根、如綫相結故名之、今俗呼鼓箏草、兩幼童對銜之、手鼓中央、則聲如箏也、

按萊和名之波　一名類草、田廢生草曰萊、今俗用芝字、芝音支　瑞草也、凡荒野堤岸雜草自生、牛鹿常嚙之、故夏野萊不過數寸、頗如青氈然、

結縷草此一種萊、似絲芒秧而無枝椏、其根細似蔓而相延結、秋抽細莖出穗、似雀麥（チヤヒキクサ）細、冬枯春生、栽假山、稍長時均苅之、則最美也、又其老莖以鼓箏也、如上說、

〔百姓傳記十三〕芝ヲ植ル事

一芝ヲ植ルニ水付ヲ好ム芝ト、水ヲ嫌フ芝アリ、水付ニ植テ能クツカヒテ強キ芝ハ、水ト鹽ト兩方兼タル入江ノ芝間、又ハ海邊ノ川岸ニ生ル、山ニアルカリヤスカ、野原ニアルカルカヤノ如ク育ツ芝アリ、潟ナドノ水氣サス處ヘハ、種ヲ求メ植ベシ、大小ノ繩ニナヒ使フニ、重寶ナル水草ナリ、

〔攝陽群談十六名物土產〕同所芝○天王寺　同村○東成郡四天王村　所々ノ培塿、岸端ヨリ切採、民家ニ商之、庭上ニ假山ヲ構ヘ、美景ヲ樂ム人必ズ設之、莖葉青シテ如（シカ）モ叢生ス、

〔本草和名十一草〕藎。草。仁諝音疾胤反　一名蓀蔏草上闇燭反、下乳屬反、一名王芻已上二名出蘇敬注　一名鴈脚出兼名苑　和名加。伊。奈。一